授業改善推進プラン＜音楽＞

西東京市立ひばりが丘中学校

1　指導目標

以下の3点を「音楽科における学力」と定め、学力向上を図るべく指導を継続していく。
1　音楽表現のために必要な技術や考え方を具体的・多角的に工夫することができる力
2　音楽の感受をより深く幅広く行うために必要な種々の具体的事例を享受できる力
3　表現や鑑賞で感受した内容を、根拠を持ってより多くの人々に伝えることができる力

2　平成２６年度　１学期における考察と課題

学　年	考察	課題
１学年	音楽のジャンルを問わず、素直に感受する能力に長けている。 既習曲への表現意欲が優れている。	和声感を養わせ、豊かなハーモニーを作ること。 新曲にも意欲的に取り組む姿勢を身につけさせる。
２学年	昨年と比較して、授業に対する基本的な学習体制が整いつつある。 作品の構造や作曲の背景などと結び付け、深く鑑賞することができる。	歌唱表現に積極的に取り組み、表現能力の伸長を図る。
３学年	歌詞の特徴を感じ取り、叙情的な表現ができるようになった。 音楽表現、創作表現など多角的な表現活動に積極的に参加できる。	より高度な和声感を修得させ表現の幅を広げる。 具体的な根拠に基づく相互評価を習慣化させる。
全学年	学年による音楽の授業への取組傾向に大きな差がある。 学年色が強く、それぞれに特化した能力の伸長がなされている。	楽典的要素を機械的に暗記するのではなく、 自らの表現に結び付けて体験的に修得させる。

3　平成26年度　2学期以降へ向けての改善のポイント

学　年	改善のポイント
１学年	歌唱曲のみならず鑑賞曲も多く取り入れるなどの工夫により、新曲に対するハードルが下がるよう指導を行う。 作曲の背景を探らせたり、詩の表現について深く考えさせたりした内容を発表させる。
２学年	鑑賞の能力の高さを生かし、歌唱曲の取組ポイントを先に明示してから練習に取り組ませる。 パートリーダー昼休み練習会等を開催して、歌唱表現に積極的に取り組む姿勢を養わせる。
３学年	ア・カペラによる歌唱表現を授業で多く取り入れ、和声感を体得させる。 時代による鑑賞曲の特徴を教師が単純に下ろすのでなく、生徒に考えさせ根拠を持って説明させる。
全学年	学年を横断させた教材の選択、三年間を見通した取り組み項目の設定を行った。 二学期以降もこれを継続させ、さらなる成果を上げたい。 異学年の合同授業を積極的に行い、下級生には音楽表現の啓蒙、上級生には 下級生への教授による自己肯定感の向上を期待する。

4　評価の工夫

観点	観点の項目	評価内容
音楽への関心・意欲・態度	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	行動観察、ワークシート、 実技テスト、定期テスト
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を持っている。	行動観察、ワークシート、 実技テスト、定期テスト
音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。	行動観察、ワークシート、 実技テスト、発表の記録
鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴いている。	行動観察、ワークシート、 定期テスト、鑑賞の記録